

胸の痛みを感じたことはありませんか？

高齢化社会を迎え、心臓疾患の中でも加齢に伴う疾患、特に大動脈弁狭窄症きょうまうくせうしやうの患者さんが増加傾向にあります。今回は大動脈弁狭窄症についての質問にお答えします。

最近、階段の上り下りや寒い朝の起床時に、胸が締め付けられるような感じを自覚するようになりました。じっとしていたら症状はおさまりますが、病院にかかった方がいいのでしょうか？

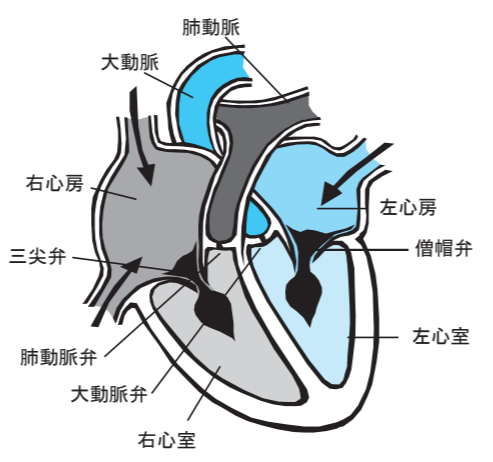
A 労作時の胸痛というまづ真っ先に、心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が狭くなっておこる狭心症を疑うのですが、大動脈弁狭窄症でも同じような狭心痛が occurs。大動脈弁狭窄症というのは、加齢などにより全身に血液を送る左心室の出口にある弁(大動脈弁)が、狭くなっている病気のことです。狭くなった弁を越えて全身に血液を送らなければならないため、左心室に負担がかかり、その負担が大きいと左心室の筋肉は酸素不足となり、締め付けられるような胸の痛みがおきます。したがって、このような症状がある時には、狭心症か大動脈弁狭窄症の可能性があるので、循環器科か心臓外科のある病院にかかる必要があります。

大動脈弁狭窄症を放っておいたらどうなるのですか？

A 大動脈弁狭窄症は、放置した場合、病状は進行していきます。大動脈弁の開閉はますます悪くなり、左心室の筋肉に負担がかかります。そのため左心室の筋肉はどんどん分厚くなり、それに伴って左心室の容量が小さくなります。その結果、心臓の血液拍出量が低下し、心不全に至ります。また、左心室の筋肉が分厚くなると不整脈が起きやすくなり、致死的不整脈により突然死する可能性が高くなります。

どのような治療をするのですか？

A 硬くなった大動脈弁を人工弁に取り換えます。心臓を止めて手術をしますが、最近では人工心肺技術も発達し、比較的安全に行える手術になってきました。人工弁には、チタンなどの金属を使用した機械弁と、豚や牛などの生体材料から作製した生体弁の2種類があります。機械弁の利点は、耐用年数に限りがないことです。しかし抗血栓療法が厳密で、基本的にワーファリンの服用を必要とします。耐用年数にすぐれていることから65歳以下の方にはこちらをお勧めしています。生体弁の利点は、約20年と耐用年数に限りはありますが、ワーファリンを必要としない点です。したがって、心臓以外の病気が発生する可能性が高い、65歳以上の方にはこちらをお勧めします。昨年あたりから、小さくて性能の良い生体弁が使用可能となっており、これは、特に高齢の小柄な女性の方に有利な人工弁です。大動脈弁狭窄症は、重症化すると手術の危険性も高まります。自覚症状は軽くても、早めの手術をおすすめします。



今月のドクター



岐阜市民病院
胸部・心臓血管外科 副部長
村上 栄司氏
(むらかみ えいじ)

平成3年岐阜大学医学部卒業
平成8年10年福岡市立こども病院心臓血管外科にて臨床研修後、岐阜県立岐阜病院、岐阜大学医学部講師を経て現職。外科学会専門医、心臓血管外科専門医。